

浄土宗のしおり ● 目次 ●

私たちの宗旨……………1

浄土宗檀信徒信条……………2

宗歌・宗紋……………3

1 どんな教えなの？……………4

2 浄土宗を開いた人は？……………9

3 本山は？……………13

4 どんな行事をするの？……………16

5 こんなとき、どうすれば？……………19

6 浄土宗からのメッセージ……………23

私たちの宗旨

浄土宗
じょうどしゅう

法然上人（源空）
ほうねんしやうにん げんくう
（一一三三—一二二二）

承安五年（一一七五）
じやうあん

阿弥陀仏（阿弥陀如来）
あみだぶつ にようらい

阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、人格を高め、社会のためにつくし、明るい安らかな毎日を送り、お浄土に生まれることを願う信仰です。

お釈迦さまがお説きになった『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥
おしやか だきよう さんぶきよう むりやうじゆきやう かんむりやうじゆきやう あみ
陀経』の三部経をよりどころとします。

お
経

名 宗 開 本 教
称 祖 宗 尊 え

浄土宗檀信徒信条

一、私たちは、お釈迦さまが本懐の教えとして説かれた、

阿弥陀さまのお救いを信じ、

心のよりどころとしてお念仏の道を歩み、

感謝と奉仕につとめましょう。

一、私たちは、宗祖法然上人のみ教えをいただいて、

阿弥陀さまのみ名を称え、

誠実と反省につとめましょう。

一、私たちは、お念仏の輪をひろげ、互いに助け合い、
社会の浄化と、平和と福祉につとめましょう。

宗歌・宗紋

◎宗歌しゅうか（法然上人御作）

月かげの

いたらぬさとは

なけれども

ながむる人の

心にぞすむ

（意訳）

月の光と同様、阿弥陀さまの慈悲の光も

届かないところはないけれども、

それに気づこうとする人の心にこそ、

注がれることよ。

◎宗紋しゅうもん（月影杏葉つきかげぎょう）



法然上人の生家・漆間家うるまけの家紋「杏葉」に、宗歌で詠われている「月」を配しています。

1 どんな教えなの？

◎ お念仏をとなえて、阿弥陀さまの極楽浄土へ

南無阿弥陀仏。^{なむあみだぶつ}この言葉は、大抵の方が耳にされたことがあるはずです。そう、

お念仏ですね。阿弥陀仏^{あみだぶつ}（阿弥陀如来^{あみだによらい}）や西方極楽浄土^{さいほうごくらくじょうど}という言葉もご存じでしょう。浄土宗の教えは、このお念仏をとなえて阿弥陀仏の極楽浄土へ生まれゆくこと（往生^{おうじょう}）を願うという、きわめてシンプルなものです。

仏教ではさまざまな修行が説かれています。どれも、私たちの抱える苦しみや悩みから自由になること——「さとり」に至るためのものです。でも、どうでしょう。その修行は誰ができることと問われれば、いや、なかなかそれは難しい、というのが実際のところです。時間的、物理的な制約もあるでしょう。しかし何より、私たち誰もが持ち合わせている煩惱^{ぼんのう}という厚い壁が妨げとなっているからにほかなりません。そこで「お念仏の教え」です。

西方極楽浄土の仏さまである阿弥陀仏は「私の国（極楽浄土）へ生まれ、あら